

日本司法福祉学会 ニュース

No.28

〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1 鈴鹿医療科学大学 藤原正範研究室 気付
Tel: 059-383-9208 (内線2407) Fax: 059-383-9666

学会編『司法福祉』刊行



『司法福祉』
日本司法福祉学会 [編]
A5判並製 240頁 2100円(税込)
発行・発売：生活書院

学会理事会が約1年半をかけて取り組んできた『司法福祉』（生活書院）が、この2月10日、刊行しました。

社会福祉士国家試験に「権利擁護と成年後見制度」「更生保護制度」が入り、そのタイトルの受験テキストが溢れ、また「司法福祉」というタイトルの本も何冊か出されています。しかし、それら出版物に私たちの学会が取り組んできた司法福祉研究の成果がどれくらい生かされているかと言えば、やや寂しい気がします。「権利擁護と成年後見制度」「更生保護制度」は、その2つの領域の土台をなす司法福祉の概念をしっかりと検討した上で執筆されなければなりません。理事会は、過去の研究成果を十分に踏まえた上で、大学生・大学院生用の教科書を出版する必要があると考えました。

まず、理事を中心に執筆陣を組織しました。

次に、それぞれの執筆者の原稿で「初校」を作り、その全原稿を全理事が読んで自由にコメントを付け、議論を行うという手のかかる方法をとりました。社会福祉専攻者が書いたものを法学専攻者が読み、法学専攻者が書いたものを社会福祉専攻者が読んで、お互い違和感や異論を出し合い、足りないところを補い合うという作業になりました。理事の間でも、専攻や自らが土台としている実務背景が違っていると、同じ言葉を使ってもその意味するところは微妙に異なります。本書の執筆によって初めて気付くことが多く、この作業は学会にとって貴重な活動になりました。

全会員が、「司法福祉」を手にとってくださることを期待しています。司法福祉の理論はまだまだ発展途上にあり、今回の出版物にはまだまだ不十分などころがあると思います。会員の皆様の力により、さらに充実した内容にしていただければ幸いです。今後5年ごとに改訂版を出版できればと考えています。(学会理事会)

『司法福祉』の目次より

- はじめに——司法福祉と社会福祉（加藤幸雄）
- 第1章 司法福祉とは（加藤幸雄）
- 第2章 少年非行と司法福祉——家庭裁判所の手続きを中心に（服部 朗）
- 第3章 刑事裁判とソーシャルワーク（藤原正範）
- 第4章 更生保護（生島 浩・石川祐介）
- 第5章 医療観察制度（生島 浩・三浦恵子）
- 第6章 少年院における司法福祉（八田次郎）
- 第7章 刑務所をめぐる司法福祉（八田次郎）
- 第8章 犯罪被害者と刑事司法・少年司法（藤原正範）
- 第9章 司法福祉と児童自立支援施設（小林英義）
- 第10章 児童虐待と家族再生（野田正人）
- 第11章 権利擁護、家事事件と司法福祉（湯原悦子）
- 第12章 低所得者支援と司法福祉（遠藤洋二）
- 第13章 司法福祉の担い手（野田正人）
- 第14章 司法福祉の方法・技術——司法福祉実践とは何か（藤原正範）
- 第15章 司法福祉の近未来（加藤幸雄）
- あとがき（藤原正範）

『司法福祉』刊行元出版社 生活書院より

このたび小社では、本学会編による書籍『司法福祉』を刊行させていただきました。学会あげて企画・執筆・出版いただいた本書は、類書の水準を超えて、当学問領域において常に参照されるべき最もベーシックなテキストブックとなっております。ぜひお手許に備えていただき、また広く会員外の関係者、学生のみなさんにもお勧めいただければと存じます。会員のみなさまには下記の通り、割引価格にて販売させていただきます。ぜひご購入をご検討いただければと存じます。

- 1冊から19冊までのご注文は、定価2100円の2割引き 1冊あたり1680円にて
- 20冊以上のご注文は、定価2100円の3割引き 1冊あたり1470円にて

以上いずれも、送料はサービスとさせていただきます。お支払いは本と同封の郵便振替用紙をご利用くださいませ。ご注文、お問い合わせは、生活書院高橋淳までお願いいたします。

電話：03-3226-1203 / FAX：03-3226-1204
メール：takahashi@seikatsushoin.com

「司法福祉」合評会（第3回司法福祉理論研究会）を開催

2月11日（土）午後1時半～4時半、日本福祉大学名古屋キャンパスにおいて、前日刊行されたばかりの「司法福祉」の合評会を開催しました。社会福祉学の大御所である古川孝順先生、少年・刑事司法研究者の葛野尋之先生に、それぞれ1時間弱の講評をいただきました。お二人の先生には、前もって最終稿をお送りしていたものです。

古川先生は、この本において司法福祉の実態がきちんと示していることを評価した上で、「司法福祉が法的決着と実体的決着という二人の力士の取り組みとしては描かれているが、その土俵についての説明がないという印象を受ける」と言われました。そして、先生ご自身の「社会福祉のL字構造」の枠組から、司法福祉・更生保護がどのように位置づけられるかについて試論を提案してくださいました。

葛野先生は、この本の意義を「司法福祉研究・教育・実務の到達点を総合的に示すもの」とし、また特徴を、①広汎性、②具体性、③理論と実務の架橋、とし、たいへん面白い内容であったと言われました。その上で、本書から触発されたとして、司法福祉に関する問題意識、司法福祉の適正手続についてのお考えを表明されました。

古川先生については、かねてからご著書によって「思索する福祉学者」であると思っておりましたが、「司法福祉」への的確なコメントをいただき、「奥深い思索人」であるという感を強くしました。葛野先生の、司法福祉の専門性、司法が司法福祉を活用する（しなければならない）ことの意味、司法福祉実践における適正手続などについてのご指摘は実に鋭いものでした。この本の中でも、「福祉」という言葉でごまかしたところがあったかもしれないと少し反省しました。（藤原正範）

国際犯罪学会から犯罪関連学会ネットワークへ

2011年8月の国際犯罪学会第16回世界大会（神戸）は成功裡に終わり、実行団体である日本犯罪関連学会連合会では、現在、清算手続を行っています。当初予定したより参加登録者が多く、また企業・団体等からの寄付金も順調に集まり、相当額の余剰金が残りました。理事会報告のとおり、私たち学会も多額の分配を受けることになりました。

これは国際犯罪学会世界大会財政の分配であり、大々的に寄付を募ったいきさつなどを考慮すると、各団体の自由な使途に委ねることで問題があるとして、連合会において「犯罪学等の国際交流の目的に使用しなければならない」という申し合わせが行われました。

そして新たに、「日本犯罪関連学会ネットワーク」が結成されることになりました。これには、警察政策学会、日本社会病理学会、日本犯罪学会、日本犯罪社会学会、日本犯罪心理学会、日本被害者学会と日本司法福祉学会が参加します。本年5月1日の発足を旨として、現在、代表者会議の日程調整が行われています。

NOFSW Annual Conference April 15-18, 2012 in Baltimore, Maryland

Year after year, the National Organization of Forensic Social Work (NOFSW) annual conference features the most comprehensive and highest quality educational programming, all designed to help YOU. NOFSW conference presenters are experts in their fields, and you aren't exposed to experts of this quality ever day! While you're at the NOFSW conference, you'll have the opportunity to gain the presenters' input about concerns your agency, organization or system might be facing. Sure, you might be able to pick up a book about any of the topics on the conference schedule, but collaborating with other forensic profession can't be beat! (→ NOFSW HP)

All conference sessions will take place at the Tremont Plaza Hotel located within walking distance of the Baltimore Inner Harbor. You will be just steps away from world-class dining, entertainment and cultural attractions. Baltimore is a colorful, diverse city known for its history, beautiful harbor, quirky neighborhoods and unique museums. Visit the National Aquarium, the Maryland Science Center or take a stroll around one of the Harbor's specialty shopping centers. Indulge in mouth-watering crab cakes and other blue crab delicacies. You'll find no shortage of amazing things to do, see, eat and drink in your free time in Baltimore!
(From Executive Director Paul Brady)

第13回全国大会（東京大会）について

大会日時

2012年8月4日（土）午後1時～5日（日）午後4時

大会会場

東洋大学白山校舎

大会テーマ

司法福祉の焦点：社会的弱者の加害—その対応を考える

大会日程（予定）

1日目（8月4日）

午後1時～1時10分 オープニングセレモニー
午後1時10分～5時10分 大会シンポジウム
午後5時15分～5時45分 学会総会
午後6時～8時 懇親会

2日目（8月5日）

午前9時～12時30分 分科会
午後1時30分～4時 自由研究発表

大会実行委員会

実行委員長：細井洋子
事務局長：藤原正範
実行委員：新倉 修・松友 了・印出井達夫・古館昌幸・
葛野尋之・丸山泰弘・緑川 徹・小林良子・
岡部眞貴子・村田輝夫・佐藤隆太・齋藤知子・
小西暎和・八木原律子・矢作由美子・小長井
賀興

◎大会シンポジウムについて

テーマ「加害行為のあった高齢者、知的障害者に司法福祉は
どう向き合うか」

コーディネーター：松本 了（東京社会福祉士会）
古川隆司（追手門学院大学）

[パート1・入口部分—検挙、取調から裁判まで]

論者1 新名雅樹（岡山パブリック法律事務所社会福祉士）
論者2 佐藤隆太（法律事務所シリウス）
論者3 村尾泰弘（立正大学）

[パート2・出口部分—受刑から釈放、自立まで]

論者1 神奈川県地域生活定着支援センターから人選中
論者2 池田恵利子（あい権利擁護支援ネット）
論者3 磯網正子（東京保護観察所）

指定討論者：前野育三（兵庫弁護士会）
細井洋子（東洋大学）

[コーディネーターからのメッセージ]

触法高齢者・障害者の社会復帰支援が全国で取り組まれるようになった中、社会福祉が矯正・保護と連携するべき課題が明らかとなってきた。実務ではさらに、刑事司法の手続にも福祉の支援が試行されるようになり、ソーシャルケアをいかに築くかが喫緊の課題である。東京大会のテーマに対して、全体会ではこれらの状況をふまえ、加害をなした人々に目を向けて企画した。前半は刑事司法の過程に即して、後半は社会復帰段階を中心に本テーマを議論していく。いずれも実践経験にもとづいた発題をもとに議論を深め、司法福祉の課題を共有する機会としたい。

◎分科会企画の募集

次のことを記載した企画書を、事務局宛宛送付のこと（5月10日（木）午後1時締め切り）。

- ・企画者の氏名・所属
- ・企画の名称
- ・企画の概要（400～600字）
- ・論者（話題提供者、シンポジスト、指定討論者等）の氏名・所属（未確定部分があっても可）

◎自由研究発表の募集

次のことを記載した書面を、事務局宛宛送付のこと（5月10日（木）午後1時締め切り）。

- ・発表者の氏名・所属（グループによるものは代表と発表者を明示する）
- ・自由研究の題目
- ・発表内容（400～600字）

◎事務局長への送付方法

メール：f-seihan@suzuka-u.ac.jp
郵便：〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001-1
鈴鹿医療科学大学 藤原正範

日本司法福祉学会第12回全国大会（おおさか大会）会計報告

(円)

収入の部		支出の部		
学会からの補助	300,000	事務費	通信	28,825
事前振込金 (参加費・昼弁当り・懇親会費)	613,000		文具等	25,592
大会当日受領金 (参加費・懇親会費)	469,000	実行委員会費（会場費）		7,400
		大会費	抄録集印刷	74,340
			講師謝金	187,000
			アルバイト賃金	241,700
			飲食物購入	42,434
			昼弁当り	181,000
			懇親会	220,840
		その他	会費返金 (交通機関不通に伴う不参加)	92,840
合計	1,382,000	合計		1,101,971

※残金 280,029円（学会事務局に引継）

2月11日理事会の報告・審議事項

[報告]

- 2012年1月31日現在の組織状況
 会員数360人（2011年度新入会員36名）
 2011年度会費納入者301人（納入率83.6%）
 2011年度未退会希望者2人
- 2012年1月31日現在の財政状況
 残高1,421,921円
 ＊第12回全国大会（おおさか大会）実行委員会からの残金280,029円を引継受領
 ＊国際犯罪学会第16回世界大会事務局から余剰分配金1,447,043円を2月中に受領予定（但し、これは犯罪学等の国際交流の目的に使用しなければならない）。
- 「司法福祉学研究12号」の編集
 2012年2月4日、編集委員会開催
 現在、自由研究論文を査読中

[審議]

- 本年度末、過去3年連続で会費未納入の会員は名簿から削除を行う（現在、対象者7人）。
- 第13回全国大会（東京大会）の開催については、12月22日開催の東京大会実行委員会の決定事項を承認する。
- 東京大会1日目に役員選挙を行う。選挙権、被選挙権は、6月末までに（6月30日振込は可）2012年度会費納入のあった会員とする。
- 新名誉会員を、北澤信次、前野育三、守屋克彦、石附敦の4会員とする（2012年8月発効）。名誉会員は被選挙権なし、選挙権ありとする。

- 国際犯罪学会第16回世界大会事務局より受領する余剰分配金1,447,043円は、学会一般会計と切り離して特別会計とする。その用途は、NOFSWを中心とした国際学術交流活動のため使用する。
- NOFSWとの学術交流は次のとおり。2012年4月のバルチモアの大会に代表を派遣する（人数に関わらず、学会からの補助は10万円とする）。2013年の30回記念大会には、学会として参加ツアーを計画し、日本の司法福祉の実情報告を行う。2013年度の日本の大会には講師招聘をする（連邦最高裁のウィギンズケースのインパクト、その後の司法ソーシャルワークの動向等について）。
- 2013年度の大会は、中部東海地区の大学で開催する（2012年度東京大会までに決定する）。
- 日本学術会議の協力団体となる事務手続を進める（学会の研究者比率を上昇させる努力をする）。

◎役員（2012～2014年度）選挙の告示

- 本年8月4日（土）午後1～6時 東京大会会場（東洋大学白山校舎）において役員選挙を行います。
- 選挙権、被選挙権を有するのは、本年6月30日までに2012年度会費を納入した会員のみです（6月30日付の振込は有効とします）。名誉会員は、被選挙権を有しません。
- 選挙の方法は、10人連記の投票用紙による投票です。
- 得票数の多い10人を理事、次の2人を監事に選任します。理事10人により、投票によらない理事5人（会員の所属する分野等を考慮して）を選任します。会長は選任された理事による互選とします。